

交通安全だより第5号

I. 5月の安全運転管理について

1. 生活道路での事故防止対策を強化しよう

～生活道路通行の自主規制を設ける～

渋滞等に巻き込まれた際、先を急ぐあまり、生活道路を抜け道として利用する運転者がいます。このような場面では、急ぎの心理に陥っているおそれがあり、歩行者等の見落としにもつながるため非常に危険です。また、生活道路は歩車道の区別がない場合が多く、駐車車両や見通しの悪い交差点が死角を作るといった道路環境的な危険があります。そこで、事業場として、通勤や業務で生活道路を抜け道として利用することを抑制するようにしましょう。合わせて生活道路を利用している運転者がいないか定期的にチェックするようにしましょう。



～減速と危険予測の徹底を図る～

やむを得ず生活道路を運転する際には、確実にスピードを落とし、歩行者や自転車が「飛び出してくるかもしれない」という危険予測を働かせた運転を徹底するようにしましょう。制限速度が時速30キロに制限される「ゾーン30」においては、歩行者や自転車の動きにいつも以上に注意し、慎重に運転するよう心掛けて下さい。

～出会い頭事故防止の指導を徹底する～

出会い頭事故の多くは「止まるのが面倒だ」「車は来ないだろう」といったことが原因で発生していると考えられます。見通しの悪い交差点では、その手前で車を完全に停止させて左右の安全を確認することを徹底するようにしましょう。具体的には、停止線の直前で一時停止して安全を確認し、次に左右が見通せる位置まで徐行で進んで再度停止し、左右の安全を確認して交差点を通過する「多段階停止」を習慣づけると良いでしょう。

2. 事故パターンから学ぶ交差点での追突防止策

令和3年中に、追突事故は約9,300件発生しています。これは全事故の約3割を占め、もっとも多い事故パターンとなっています（警察庁調べ）。追突事故が発生しやすい交差点での事故パターンを理解し、追突事故を防止しましょう。

パターン① 黄信号で前車に追突



黄信号の交差点に接近した時「前車は交差点を通過するだろう」と安易に判断していると、減速した前車に追突する危険があります。黄信号での停止を習慣づけましょう。

パターン② 交差点手前の施設に入ろうとした前車に追突



前車の左ウinkerを見て「交差点を左折するのだな」と思い込むと、交差点手前の施設に入ろうと減速した前車に追突する危険があります。商業施設が並ぶ道路では、前車の動静をよく確認し、車間距離を取りましょう。

パターン③ 漫然と右折車両に追従し追突



前車に続いて右折する時、安全確認を前車に任せて漫然と追従すると前車が歩行者に気づき急停止した際、対応できず追突する危険があります。前車に続いて右折する時は自分の目でしっかりと安全を確認しましょう。

パターン④ 青信号で発進して追突



前車に続いて信号待ちをしている時、信号機の色だけを見て発進すると、まだ停止していた前車と追突する危険があります。前車が進んだことを確認してから発進しましょう。

II. 今月の交通ヒヤリハット

・事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	帰宅途中
どこで	交差点
何をしている時に	信号が青に変わったため確認しながらゆっくりと前進していた時
どうなった	かなり後方にいたはずの車が気づけば至近距離にいて追突されそうになった

Ⅲ. 今月の事故事例

◆事故の発生状況

令和〇年5月某日 午前10時20分頃 天候：晴れ

◆事故の当事者

A / 男性22歳 普通乗用車運転

B / 男性52歳 中型トラック運転

◆事故の発生概要

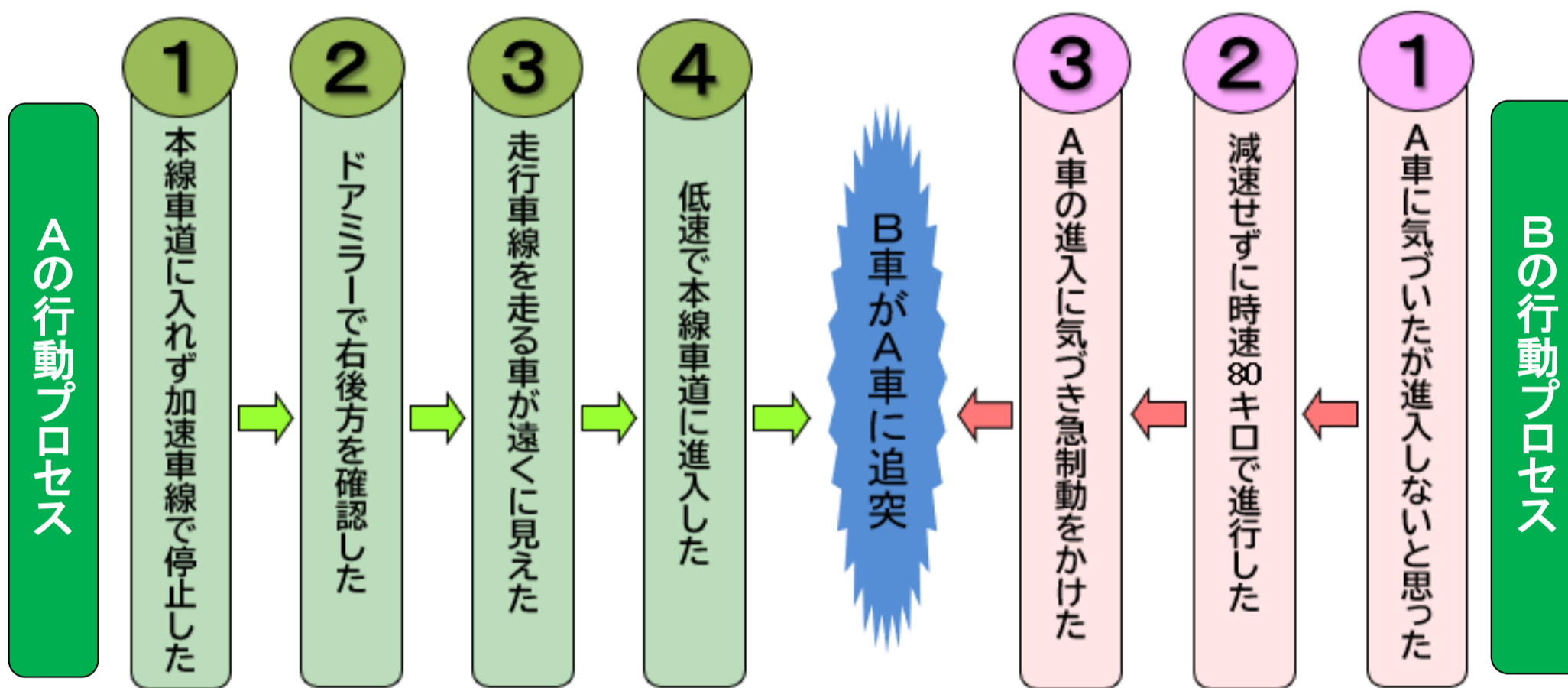
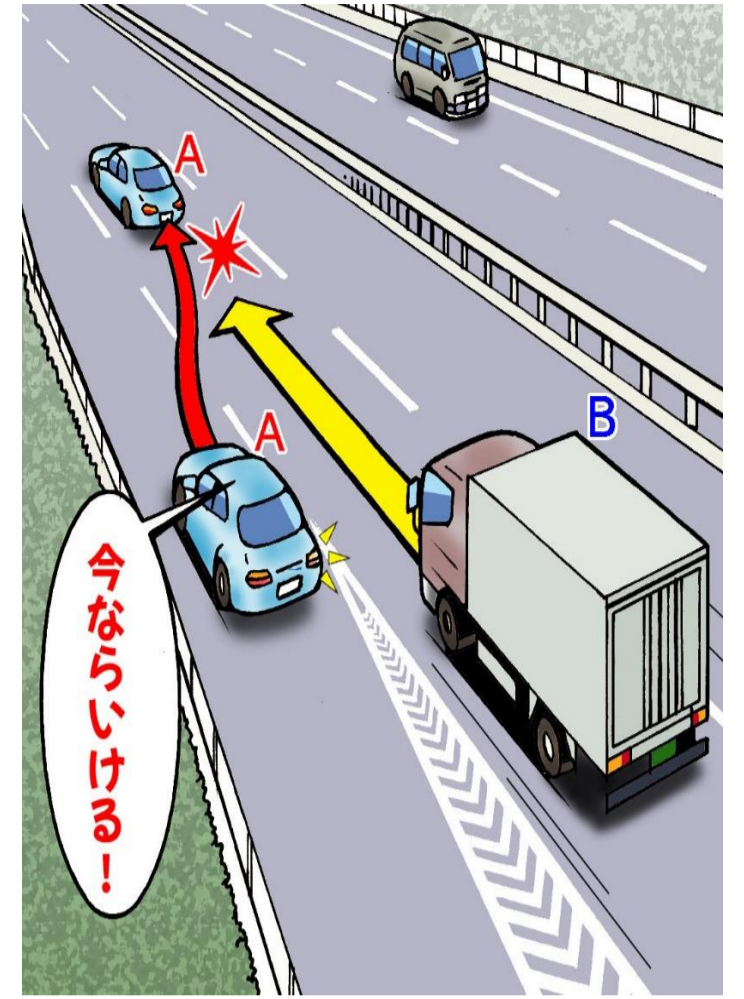
Aさんは4月に印刷会社に入社し、先輩社員と得意先を社有車で訪問していました。最初は先輩社員が運転し、道を覚えた後はときどきAさんも運転していました。

事故当日、先輩社員が体調不良のため休暇を取ったことから、上司から「一人で訪問できるか」と聞かれ「大丈夫です」と答えました。ただ、運転免許を3年前に取得していましたがそれ以降はほとんど運転しておらず、一人で運転することに多少の不安がありました。

会社を出発して、高速道路を利用するためインターチェンジから加速車線に入ったのですが、合流するタイミングがわからず本線車道に入る直前に止まってしまいました。

ドアミラーで右後方を確認したところ、車が遠くに見えたので、「今なら行ける」と時速30キロほどに加速して本線車道に入った直後に、走行車線を走行してきた中型トラック（Bさん運転）にあっという間に追突されたのです。

Bさんは時速80キロで走行し、加速車線に停止している車に気づきましたが、進入するとは思わずそのまま進行していました。



事故の原因と背景

Aの行動

- ・合流するタイミングがわからず停止した。
- ・十分に加速せず本線に合流した。

Bの行動

- ・合流しようとするAに気づいたが、自車の前に進入してくると思わなかった。
- ・そのまま進行した。

類似事故を起こさないために運転者の対策は

●加速車線で十分に加速して本線車道に流入する

本線車道に入る車と本線を走る車の速度に差があると非常に危険。本線に合流する場合は、加速車線で十分に加速し、本線を走る車のなかで「後ろに入る」車を決め、その車の斜め後方につけるように速度を調節する。

●合流してくる車の動きを読み、早めに対処する

合流してくる車を見つけたら、後方の安全を確認して車線を変更したり、前の車との車間距離をあげたりして、合流してくる車に備える。

ワンポイントアドバイス

主観的な速度感と実際の速度とのズレが生む危険

運転者はスピードを速度計よりも自分の感覚で判断する傾向がある。一般道路を時速50キロで走行していて高速道路に流入する場面では、時速75キロ程度でも時速100キロだと勘違いすることがあり、本線を走る車との速度差から危険な状況に陥るおそれがある。

反対に、高速道路を長時間運転した後で一般道路に入ると、減速したつもりでも思った以上に速度が出ていて、危険な場面に遭遇することがある。

スピードは自分の感覚に頼らずに、速度計でチェックする習慣を身に付けよう。

